海を越えて運ばれてきた文化

柴崎（しばさき） 友香（ともか）

大阪の近代から現代の建築を巡るガイドブックを作るため、大阪の中心部を歩いた。建築史家の倉方俊輔さんが解説をしてくださり、わたしは大阪出身者として主に聞き手をつとめた。見慣れている建物も、来歴や設計者については知らないことが多く、大阪の近代以降の歴史や文化を振り返ることができた。

わたしの出身地、大阪市大正区のページも特設してもらった。市の南西部、木津川と尻無川に挟まれた、茄子のような形の「島」。客船が出る港はないので、普段の生活では、海が近いことは意識されない。むしろ、工場と行き来する船を通すために橋が極端に少なく、都心に近い割には不便な要因となっている。

古い建物を意識して歩いてみると、駅の近くには船舶に関わる立派な商店が現役で、海運が盛んだったころの様子がしのばれ、海から運ばれてきたモノを加工し商うことで大阪の産業を支えてきたことが実感された。

海からは、人も文化もやってきた。近年、沖縄出身の住人が多いことも注目されるようになった。子供のころ、サーターアンダギーが商店街でごく普通に売られていたが、さとうてんぷら、と呼ぶ年配の人もいたので、てっきり大阪の食べ物だと思っていた。

同級生には、沖縄だけでなく、奄美大島や九州、四国方面が田舎の友人も多かった。わたしの父は香川県小豆島の出身だった。隣区の弁天埠頭から出るフェリーによく乗っていたが、現在は四国は橋でつながり、大阪と各地をつないでいたフェリーも随分減った。

今年の春に、天王寺にあべのハルカスという超高層ビルができた（実家からもよく見える）。地上三百メートル、巨大な吹き抜け空間の展望台からは、大阪の街が文字通り一望できる。上町台地の四天王寺から大阪城まで、さらに梅田の高層ビルが見渡せ、大阪の歴史が視覚で体感できる。

鉄道が発展して以降、ターミナルをつなぐ南北が主軸となったが、近世までは海から内陸へ連なる東西の堀と道が街を形作っていたことも、地形を見るとよく理解できる。国内外から海を渡って運ばれたモノや文化が、川をさかのぼり、山を越えていった。

工業化が進んで以降、都市の川や水辺は「裏側」として扱われてきたが、最近は遊歩道が作られ、川を眺める飲食店なども増えてきている。大正区でも、今まで使われていなかった川縁でのイベントが行われていて、海や川との関係が変わることで、また新たな文化が生まれてきそうだと期待している。

プロフィール
1973年大阪生まれ。小説家。
2000年刊行の『きょうのできごと』（河出書房新社）が行定勲監督によって映画化。『その街の今は』（新潮社）で芸術選奨文部科学大臣新人賞・織田作之助賞大賞・咲くやこの花賞、10年『寝ても覚めても』（河出書房新社）で野間文芸新人賞、14年『春の庭』（文藝春秋）で芥川龍之介賞を受賞。

月刊 みんぱく
12月号目次

1 エッセイ 千字文
海を越えて運ばれてきた文化
柴崎 友香

2 特集 おもちゃ いまむかし
2 時代玩具コレクションについて
日高 真吾
4 デジタルゲームいまむかし
——変わるものと変わらないもの
吉田 寛
5 組上灯籠——江戸のペーパークラフト
香川 雅信
7 人形遊びは、女の子のもの?
宇田川 妙子
8 「共遊玩具」とは?
高橋 玲子

10 集めてみました世界の○○
ベル編
山中 由里子

12 みんぱく Information

14 文化遺産おもてうら
もの作りの技術を後世に伝える
——奥羽山地の正藍染
小谷 竜介

16 多文化をあきなう
タイの有機ジャスミン米
鶴田 格

18 味の根っこ
シャンバル
山本 睦

20 人間学のキーワード
生権力
加藤 敦典

21 異聞逸聞
耳が聞こえないからコミュニケーション障害か?
相良 啓子

22 制服の世界、世界の制服
アメリカを身にまとったサンタクロース
葛野 浩昭

24 次号予告・編集後記